

指定名	I C T利活用授業研究推進校	学校名	横浜旭陵高等学校
題 名	「人と社会と未来につながる力」を身に付けるための主体的な学びの実践 ～誰もがができる I C T利活用授業の普及のために～		
<p>1. 3年間の目標（3年後のめざすべき姿）</p> <p>全教員が、知識を教えるだけではなく、生徒から学びを引き出す支援者でもあるとの視点を持ち、I C Tを効果的に活用した学習を行い、基礎的・基本的な知識・技能の習得はもちろんのこと、課題解決に向けて考え、判断する力や自分の意見を表現する力など、これからの社会を生きていくために必要な幅広い力の育成を図る。</p> <p>2. I C T利活用授業研究推進校として学校全体で進めた取組み</p> <p>(1)平成 28 年度の目標</p> <p>生徒の主体的な学びを支援し学力を向上させるための、I C T利活用授業の研究・実践を行う。</p> <p>(2)平成 28 年度の具体的な取組み</p> <p>[Step1] 「アクティブ・ラーニング」「生徒が『主体的に学ぶ』具体的な姿」について全職員がイメージし共有する。</p> <p>主体的・協働的な学びに関する校内研修の実施</p> <p>①授業改善に関する校内研修会（第1回） 7月29日実施 生徒にとっての主体的学習（アクティブ・ラーニング）、協働的学習とは何かを考える。 《テーマ》コーチングについて 《講師》産業能率大学経営学部教授 鈴木 建生 先生</p> <p>②授業改善に関する校内研修会（第2回） 8月23日実施 主体的・協働的な学習を促進するための一つの方策として、I C Tを利活用した授業の研究を進め深化をめざす。 《テーマ》I C Tを利活用した授業実践 《講師》横浜国立大学教育人間科学部准教授 石田 喜美 先生</p> <p>[Step2] ①生徒が「アウトプット」できる授業を目指した授業改善を行う。 ② I C Tを効果的に活用し、生徒たちの「思考を活性化」できる様々な学習形態を研究・実践する。</p> <p>公開授業および研究協議の実施</p> <p>①講師による授業見学および指導助言 11月8日実施 アクティブ・ラーニング型授業の実践に向け、指導助言をいただき授業改善を図る。 《講師》産業能率大学経営学部教授 鈴木 建生 先生</p> <p>②公開研究授業および研究協議 11月15日実施 I C T等を利活用した主体的な学習を促進するための授業実践を通じて、指導内容や方法等を研究し、その研究の普及を図る。</p> <p>学校支援クラウドサービス「スタディサプリ」の導入 県教育委員会と学校支援クラウドサービスを展開している民間企業との共同研究により、6月に「スタディサプリ」を導入。学習用動画やドリル問題など、生徒個別の学力に応じた、効果的な自学自習や学び直しのためのコンテンツの活用を開始した。</p> <p>I C T利活用に関する職員研修の実施 コンピュータ室の教員機活用方法紹介・アプリケーション職員対象説明 等</p>			

ICT利活用授業の実践

① 教員による課題の提示、生徒の理解を深めるための説明補助、興味・関心の喚起 等



動画を利用した実習内容の説明
(服飾手芸)



「スタディサプリ」の動画を活用した授業
(数学A)

② 学習の成果をまとめる、思考を共有して深める、調べ学習 等



グループ活動による発表
(コミュニケーション英語 I)



物語に関連する画像検索
(古典A)

③ 表現活動、実技を振り返る 等



iPadの作曲アプリを用いた創作活動
(演奏を楽しむ)



グループごとに相互撮影し、映像を見て改善
(フィットネス)

(3) 平成 28 年度の主な研究の成果

ICTの利活用は、生徒の興味関心や意欲を喚起し、主体的に学ぼうとする姿勢を引き出すことができるため、勉強に不器用な本校の生徒を支援するのに有効な手立てである。さらに、ICTを活用した生徒の“協働”や“思考の共有”、“他者のアドバイスを生かした再思考”などは、生徒の思考を活発にし、「深い学び」による主体的な課題解決力の育成につながっている。

今年度の取組みを通して、ICTの効果的な活用は、

- ・新しい知識や技能を習得したり、それを実際に活用して、問題解決に向けた探究活動を行ったりする中で思考・判断・表現し、学習内容の深い理解につなげる「深い学び」
- ・教材と向き合い自分なりの考えを表現したり、他者との協働などにより、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」
- ・生徒一人ひとりが目的意識を持ったり必要性を感じて取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」

の実現の重要な手立ての一つであるとの感触をつかんだ。次年度以降、アクティブ・ラーニングの視点に立ったICT利活用授業の実践に向けて、さらに組織的な取組みを推進していきたい。